

石川七郎右衛門源正重

石川瀬玄備政武家

石川彌九郎源貴繁

絶家

附 石川九次右衛門源貴定

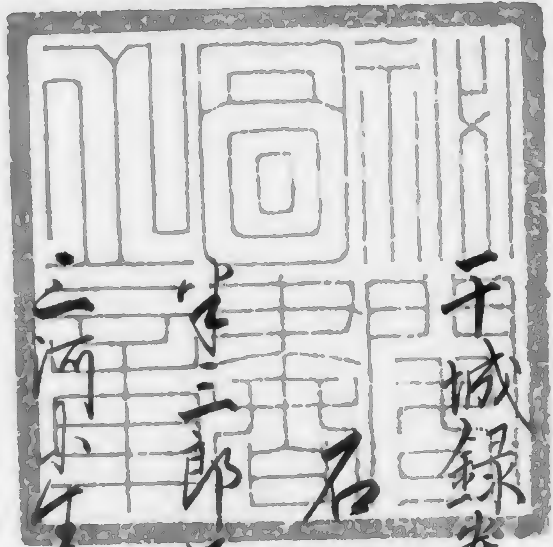
絶家

石川希九郎源利賢

石川源二郎辨賢家

石川新九郎源正綱

絶家



干城録卷第十

石川

源正信正信子正信子正信

源正信正信廣忠卿

東照宮小使奉つ

寛永譜○按、とら小家傳

正信八下野權守政康子孫

あてて父の名、  
天正年中、  
法名

宗壽家譜正信家譜廣忠卿

東照宮小使奉つ、  
永禄六年

門徒一揆の時大和ふらみして清敵れ  
色はあつてつらう累代乃に王家の  
叛さ奉る事天のせえ適ましく  
ひく夜凶徒小與ひと罪さるや  
後ふいさうそむさゆりて居れと  
やうそ蜂屋坐るそ正負次と晉議して  
降参ひ三月清ゆるとかうゆりて再  
ひは奉る 松平記 國朝  
大業廣記 元龜二年正俊遠江

國二股城と守り居る小武田信玄攻る  
こと急るりらまは正俊からひいて  
城と引退くたは十二月三方原合  
戦のこぼしの敗軍れ恥とあめい遂く  
討死 家譜 武徳大成記 〇按るる小寛永譜小八濱松の  
城小く討死するはこれとも此年濱松合戦の事  
不見かたは八分家譜  
武徳大成記よりいふ 其子守ら城 正次も二河  
小生 寛永  
譜 天正年中駿府小といふ  
東照宮小は奉つて廩米三百俵と賜ひ

慶長十二年より大番に列し元和元年大坂法陣小従ひ奉つて後小普請となり寛永十八年八月一日より七十家譜少して死ひ法名と源誓といふ家譜其子半右衛門正重八武藏小生也寛永家譜先公長五郎といひ寛永十六年七月

大猷院殿と拜し家譜同十七年より

仕へ奉つし寛永家譜大番となり同十八年

遺跡とつて同二十年八月新番に轉じ後これと辞し其後また大番小儀と

家譜○今の二番石川半七郎正昭の祖なり